



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター 広報誌

OICIだより

Take
free

Osaka International Cancer Institute

季刊

Vol. 013

2024 Winter

★ CONTENTS

- 02 世界初！糖鎖による間質性肺炎の新規診断法を開発
抗がん剤副作用チェックへの活用をめざす
- 03 第3回合同膵がん教室を開催しました&
大阪城・太陽の塔のライトアップ実現しました！
- 04 胃がんセンターの取り組み
- 05 看護部国際看護交流 PART2
～ Welcome to Osaka International Cancer Institute ～
- 05 成人病公開講座・スキンケア教室（オンライン配信）の
お知らせ
- 06 2階診察室の変更についてご案内
- 06 新電子カルテシステム移行につきましてお知らせとお願い
- 07 「OICIだより」に関するアンケートにご協力をお願いいたします
- 07 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 08 寄付者ご芳名
- 08 ご寄付のお願い



世界初！糖鎖による間質性肺炎の新規診断法を開発 抗がん剤副作用チェックへの活用をめざす

当センター糖鎖オンコロジー部（部長・谷口 直之）は、このたび、糖鎖による間質性肺炎や肺がんなどの新規診断法を開発しました。その研究結果が、古い歴史をもち数多くの重要論文を発表してきた研究学術誌 Journal of Biological Chemistry に掲載されました^{*1}。本研究は当センター糖鎖オンコロジー部の大川 祐樹チームリーダーと研究アシスタントの貫戸 紀子氏が中心となり、当センターの呼吸器外科・呼吸器内科・成人病ドック科、および日本医科大学、東北医科薬科大学、大阪大学、岐阜大学の研究グループと共同で行ったものです。

研究の背景

私たちの体は主にタンパク質でできており、そのタンパク質の半分以上には糖鎖が付いています。糖鎖はグルコースやマンノース、フコースなどと呼ばれる砂糖や果糖の成分が鎖状につながったもので、タンパク質に付くことで、そのタンパク質の機能を制御します。本グループはこれまでに、がんを合併しやすい COPD^{*2} や潰瘍性大腸炎^{*3} などの疾患で、コアフコースという糖鎖^{*4} が、それら病態の悪化に関連することを明らかにしてきました。この背景を受けて、本研究では血液中に豊富に存在するイムノグロブリン (IgG)^{*5} のコアフコース糖鎖の解析をめざし、コアフコース糖鎖を高感度に認識できる特異抗体を作製し、その抗体による簡便・迅速な測定法の開発を行いました。

研究手法と成果

当研究グループが開発した方法は、ラテックス凝集比濁法といい、抗体を結合させたラテックス粒子と少量の血液を混ぜた後、光の吸収度を測ることで血液中のレベルを迅速・簡便に測定することができる方法です。この方法により、肺がん、間質性肺炎^{*6}、COPD、および健康人の方々の血液を計測したところ、それらの疾患においてコアフコース糖鎖を持たないイムノグロブリン (IgG) が著しく増加していることがわかりました。その変化は特に間質性肺炎で顕著でした (図 1)。

そのメカニズムを解明するために、肺がん細胞とイムノグロブリン (IgG) 産生細胞における遺伝子発現解析を行いました。その結果、肺がん細胞から分泌される CCL2 (C-C motif chemokine ligand 2) というタンパク質がイムノグロブリン (IgG) 産生細胞に働くことで、コアフコース糖鎖を付けるために働く FUT8 (α 1,6- フコシルトランスフェラーゼ) 遺伝子の発現を強く抑えることがわかりました (図 2)。

今後の期待と展望

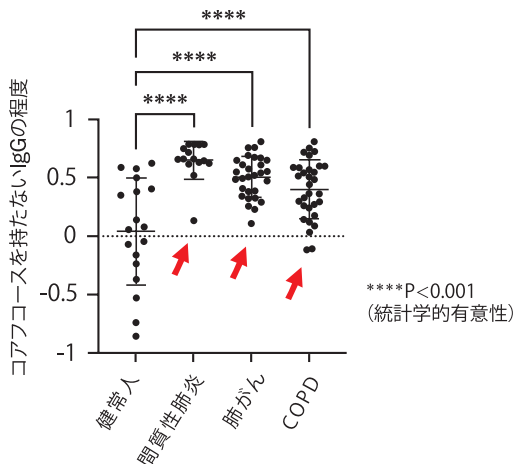
これまでに、コアフコース糖鎖構造の解析は、主に液体クロマトグラフィーや質量分析という極めて複雑で専門的な方法で行われ、病院での検査には不向きでした。一方、抗体による解析は非常に簡便で定量性に優れています。よって本研究のように、コアフコース糖鎖を解析できる抗体を用いた測定法は、世界で初めての簡便・迅速でユニークな診断法になることが期待されます。

抗がん剤治療の副作用として、しばしば間質性肺炎が起こり、命にかかわるほど重篤になることがあります。できるだけ早くみつつけて処置することが必要ですが、現時点ではその方法がありません。今回、開発された方法は、血液を使って間質性肺炎の診断を簡便に行うことができるため、人間ドックなどの健康診断で使用することや、がん治療の副作用をモニタリングすることに利用できると想定しています。今後とも開発を続け、一日でも早く、大阪府民や国民の皆さまの健康増進に役立てるよう尽力してまいります。

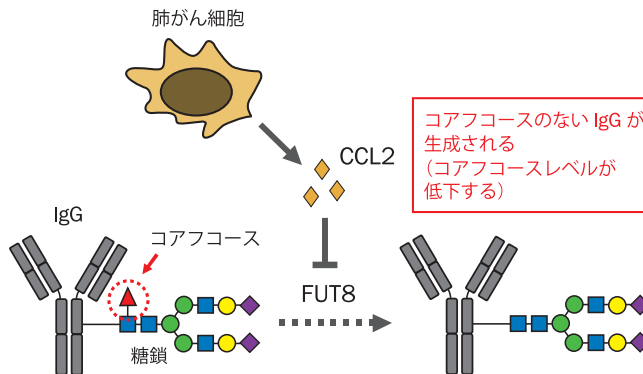
(注釈)

- ※ 1 doi: 10.1016/j.jbc.2023.105365 をインターネットで検索されると、論文の原文をみることができます。
- ※ 2 慢性閉塞性肺疾患の略。主に喫煙によって発症し、肺（肺泡や気管支）の炎症や破壊が起き、息切れを生じる病気。肺がんの合併も多い。
- ※ 3 大腸や直腸などにみられる慢性的な炎症性疾患。腹痛、下痢、血便などの症状がみられる。免疫の異常や遺伝子の異常などが原因といわれているが、その詳細はまだよくわかっていない。大腸がんの合併もみられる。
- ※ 4 FUT8 (α 1,6- フコシルトランスフェラーゼ) という糖転移酵素 (糖鎖を合成する酵素) によってつくられる糖鎖構造。フコースという糖が N 型糖鎖の根本部分に付いている構造。
- ※ 5 免疫グロブリンのひとつ。ヒトの抗体成分。可変領域 (Fab) と定常領域 (Fc) があり、定常領域にコアフコースを持つ糖鎖が付加されている。
- ※ 6 肺の肺泡や気管支、それらの細動脈の周囲などの炎症性疾患の総称。薬剤、放射線、ウイルス感染、化学物質の吸引など、その他多くの原因で起こる。原因のわからない特異性間質性肺炎は、特に肺がんとの合併が多い。

【図 1】 IgG のコアフコース糖鎖の減少。すなわちコアフコースを持たない IgG が増加している。



【図 2】 肺がん細胞由来の CCL2 が血液中 IgG のコアフコースレベルを低下させる。



★詳細はホームページをご覧ください
<https://oici.jp/hospital/news/6928/>



第3回合同膵がん教室を開催しました & 大阪城・太陽の塔のライトアップ実現しました！

肝胆膵内科副部長・膵がん教室代表 池澤 賢治

このたび2023年11月25日に、北海道膵がん教室・パンキャンジャパンの皆さまと、大阪府・大阪市・北海道・札幌市のご後援のもと、第3回合同膵がん教室を開催させていただきました。当センターの膵がん教室はチーム同士の交流をもとに、2021年11月に第1回、2022年11月に第2回の合同膵がん教室を北海道膵がん教室・パンキャンジャパンの皆さまとオンライン開催させていただきました。第3回を迎えた合同膵がん教室にあたっては、パンキャンジャパン・NPO 法人大阪がんええナビ制作委員会の皆さまのご尽力、行政の皆さまのご理解もあり、大阪城・太陽の塔・札幌テレビ塔・沖縄琉球新報の同時ライトアップが世界膵臓がんデーである11月16日に実現しました。

また11月25日の合同膵がん教室は完全オンラインで開催させていただき、リアルタイム視聴で200名を超える参加者にご視聴いただきました。総長・松浦からあいさつのあと、池澤から膵がんの診断・治療のポイント、最新のトピックス（コンバージョン手術*・遺伝子診断）についてご紹介しました。続いて、手稲溪仁会病院薬剤師・平手先生から膵がんの抗がん剤治療および副作用、当センター・藤岡看護師から膵がん治療中の日常生活の注意点、北海道大学病院管理栄養士・池田先生から治療中の食事を楽しむコツについてそれぞれ講演いただきました。当センター肝胆膵内科・高田医師によるリフレッシュタイム（ストレッチ）の後、会の後半のパネルディスカッション（上記メンバーに加え、手稲溪仁会病院副院長・安部先生、北海道大学大学院医学

研究院消化器外科学教室Ⅱ・中村先生、当センター消化器外科・秋田医師、当センター放射線腫瘍科・宮崎技師がご登壇）では、患者さんやご家族から事前に寄せられた多数のご質問を踏まえて、副作用に対する対処、最新の放射線治療のご紹介、コンバージョン手術についてのお考えなど幅広く膵がんのトピックスについてお話をさせていただきました。

最後に、フリーアナウンサー・子守 康範さまのご紹介で、膵がん教室テーマソング“希望の光”（作曲：作曲家・饗場 公三さま、作詞：当センター内科・外科系外来・山田師長）を放映し、会を終了しました。開催後の反響として多数の参加者の皆さまからご好評の声を頂き、見逃し配信の視聴回数も約800回となっています。このたびの合同膵がん教室開催・ライトアップにあたりご尽力・ご協力いただきました皆さま、またご参加いただいた皆さまに心より御礼申し上げます。

当センターの膵がん教室は、たくさんの職種のメンバーが連携して一つのチームとして活動できることが強みです。当センター膵がん教室 YouTube 公式チャンネルでのアーカイブ配信の取り組みも開始しました。患者さんやご家族の方のニーズに応えられるような形での情報発信の機会をさらに増やしていけたらと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



* 診断時点では手術が難しいと判断された患者さんが、抗がん剤などの治療により手術が受けられるようになること

ライトアップ



太陽の塔

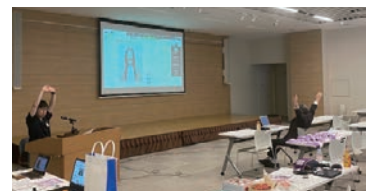
大阪城

東京タワー

会場の様子



あいさつをする
総長・松浦



オンライン画面



胃がんセンターの取り組み

日本をはじめとする東アジアでは世界的にも胃がんの罹患者数が多く、中でも日本は世界の胃がん治療をリードする立場として治療開発を行ってまいりました。その成果である胃がん治療ガイドラインには、現在までに得られた知見を元に最善と思われる治療方法が掲載されています。当センターは、がん専門施設として、豊富な診療経験を元に全国でも有数の治療成績を示し、特徴的な治療もご提供しています。

- **早期胃がんや粘膜下腫瘍（一定の条件を満たすものに限る）に対しての内視鏡治療**
- **腹腔鏡・ロボット支援手術における単孔式手術（穴が一つ）の胃切除術**
- **Stage IVと診断した胃がん患者さんに対して化学療法後に行う手術（コンバージョン手術）**

(* 適応には一定の条件を満たす必要があります)

これらの治療の恩恵を受けていただくためには、それぞれの患者さんの身体症状や条件、社会的背景などを踏まえて提案する必要があり、より高度化・専門化・多様化する治療をいかに患者さんに提案・理解いただき、治療の継続につなげるかを考えていく必要性に直面しました。そのような課題を解決するため、胃がん診療に関わる部門が一つになり、多職種スタッフが一丸となって患者さん目線の治療を実践すべく、2022年4月“胃がんセンター”を開設しました。

胃がんセンターでは、月に一度の会議を中心に、より良い療養を目指して各部門からの提案を元にさまざまな取り組みを進めております。具体的な取り組み例としては、胃がん治療前の歯科検診の開始や、術後の肺炎予防や摂食のサポートなどの開始、リハビリテーション部門による治療前・治療中の筋力低下や治療に伴う運動機能低下に対する早期リハビリテーションへの介入、栄養腫瘍科による治療中の継続的栄養指導などが挙げられます。各治療担当科との打ち合わせ、情報共有の中で実施することで安全かつ継続可能な介入ができるだけでなく、取り組みに対するフィードバックを元により良い介入が検討できる状況が生まれています。

今後は、患者さんの社会復帰・治療継続のサポートを目的に、胃がんセンターを通じた地域医療連携を推進することを計画しています。当センターの主治医と地域の先生方で“二人主治医制”を構築することで、より社会生活がしやすい環境整備を進めたいと考えています。

新たに受診をご検討中の患者さんやご紹介いただく先生方におかれましては、具体的な治療方法が不明であったとしても、胃がんセンターを受診またはご紹介いただくことで、胃がんセンター内での情報共有により適切と考えられる診療科へのご案内が可能になります。

また、事前にご相談を希望される患者さんにつきましては、胃外科のホームページ内で、疑問に思われていることなど、受診のサポートを行う目的で個別のメール相談（無料）（gastriccancer@oici.jp）をお受けしておりますので、ご利用ください。詳しくはホームページをご覧ください。

※個別のメール相談は、当センターで治療をご希望の方のみでお願いします。

<https://oici.jp/hospital/department/igancenter/>



看護部国際看護交流 PART2

～ Welcome to Osaka International Cancer Institute ～

看護部 山根 康子

昨年度に引き続き、今年度も10月23日にタイのマヒドン大学看護学部から2名の院生の看護師さんが当センターに来られました。小児看護学専攻のお二人の目的は、当センターで「AYA世代の看護の実際を学ぶ」ことです。看護部国際化WGのメンバーの自己紹介のあと、当センターの概要についてNiNA（日本国際看護師）の幸野看護師（HCU）が流ちょうな英語でプレゼンテーション。皆さん本当にかっこよくて素敵！おかげで、終始和やかな雰囲気での交流が進みました。院内見学では、NiNAの山田看護師（外来）と武輪看護師（ICU）が、山田師長、西野師長、小山師長と共にご案内しました。がん専門病院としての当センターの規模の大きさ、がん治療の実際や設備面、そしておもてなしの対応にも感動しきりのお二人でした。



そして今回は、英語通訳サポートの中央手術室 アギラルマサ友里亜看護師と外来事務補助 葛こころさんのNiceサポートがあり、円滑なコミュニケーションを図ることができました！

看護部では今後も国際がんセンターとしての役割を果たすべく、国際化に向けた対応力の向上に取り組んでまいります！！



成人病公開講座・スキンケア教室 （オンライン配信）のお知らせ

当センターでは、成人病公開講座およびスキンケア教室をオンライン配信しております。当センターのホームページより視聴いただくことができます。ぜひご覧ください。

成人病公開講座では、当センターの診療科における専門の医師が、それぞれのがんの特性や、診療・治療に関することを詳しく解説、またそれらの医療に対する連携などの取り組みについて紹介されています。

成人病公開講座
動画はこちら



スキンケア教室では、当センターの医師・薬剤師・看護師・美容師ががん薬物療法に伴う皮膚乾燥、皮疹、かゆみ、脱毛、爪囲炎などの皮膚障害に対するスキンケアの方法をお伝えしています。

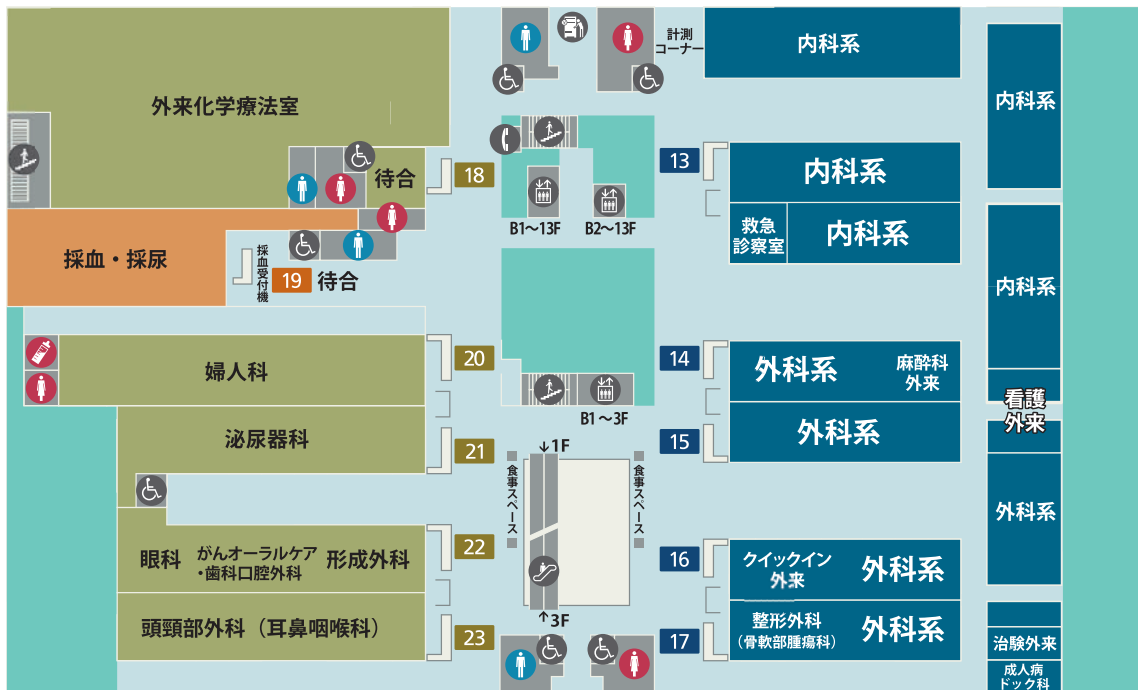
スキンケア教室
動画はこちら



2階診察室の変更についてご案内

2023年11月6日より、2階診察室の一部を以下のように変更いたしました。再来受付機から出力される受付票で**ブロック受付番号**、**診察室番号**をご確認の上、診察室前でお待ちください。

受付・医師事務・看護師・医師など関係職種が連携し、外来診療をスムーズに受けていただけるよう心掛けます。



新電子カルテシステム移行につきまして お知らせとお願い

病院長 大植 雅之

2024年1月1日より、当センターは最新の電子カルテシステムへ移行いたしました。この新システムは、センター内の情報共有と伝達を効率化し、患者さんへのより良いサービス提供を目指すものです。

この移行に向けて、当センターでは昨年よりスタッフの操作訓練とリハーサルを積極的に行ってまいりました。しかしながら、新システムへの切り替え初期には、予期せぬトラブルや操作の不慣れにより、診察や会計時の待ち時間が通常より長くなっております。また、システムの不具合や操作上の問題が発生した際には、システム担当者が診察室に入ることもございます。

このような状況は一時的なものであり、迅速に解決を図るために全力を尽くしております。ご不便をおかけしておりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後は、患者さんがスムーズに診察を受けていただけるよう、

- スマートフォンで予約確認、呼び出しサービス
- 電子問診票システム



の導入を予定しております。サービス開始日は改めてお知らせいたします。

「OICI だより」に関するアンケートにご協力をお願いいたします

当センターでは、旬なできごとなどを院外広報誌へ掲載させていただくことで、患者さんやご家族との架け橋になりたいと考えています。

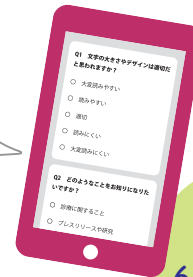
よろしければ、ぜひ皆さまのお声をお聞かせ願えますと幸いです。

右記の QR コードをスマートフォンなどで読み取っていただき、Google フォーム上にてご回答ください。

電子媒体にてご覧いただいている方は、こちらの URL をクリックのうえアクセスすることも可能です。



<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdovYFoVLQR7ZERPemsPgp0TjQyrYJok8p1Hf8bfKE-X-FqnA/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0>



全部で
6問です！

はい、こちら「がん相談支援センター」です

がん相談支援センター 中村 仁美

【file 013】

「介護が必要になった場合どうすれば良いの？」

がんになってもあなたらしく暮らせるように、自宅療養を支える制度やサービスがあります。今回は介護が必要になった時に安心して自宅や地域で日常生活を過ごせるように支援する「介護保険制度」についてご紹介します。

●対象者

- ① 65 歳以上で介護が必要になった方（病名は問わない）
- ② 40 歳以上 64 歳以下の特定疾病により（厚生労働省が定める 16 種類の病気）介護が必要な方

★「がん」は特定疾病に含まれますが、**病状により申請対象になるかどうか主治医の判断が必要になります。**

●申請方法

住民票のある市町村で申請（郵送申請が可能などところも多い）または、高齢者の生活上のお困りごとに対しての総合相談窓口である「地域包括支援センター」で代行申請が可能です。その後、認定調査や審査を経て介護が必要と判断されると個別の状況に応じて、以下のサービスの利用を検討することができます。

●利用できるサービスの一例

- 自宅で利用：訪問介護、訪問リハビリ、訪問看護
- 通いで利用：デイサービス、デイケア
- 入所する：施設に短期入所（ショートステイ）
- 福祉用具貸与：介護ベッド、車いす、手すりのレンタルなど
- 住宅改修：持ち家の段差解消など
工事を伴うもの



安心してがん治療を続けていくためには療養環境を整えることも大切になります。

生活面で何かお困りごとがあれば、お気軽にがん相談支援センターまでお声がけください。

♥がん相談ホットライン ☎ 06-6945-1870
(情報提供・相談専用)

♥希少がんホットライン ☎ 06-6945-1177

電話対応時間：月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前 10 時～午後 4 時

ご寄付について

寄付者ご芳名 2023年10月1日～12月31日 受領日順／ご希望者のみ掲載

國本 幸男様、王 佳寧様、植栗 隆様、前田 治男様、株式会社ハイメディック 代表取締役社長 伏見 有貴様、木下 栄二様、大野 修様、八束 浩様、不二ラテックス株式会社 代表取締役社長 近藤 安弘様、李 木村様、戸野 寿子様、玉田 雅宣様、岡田 和男様、石坪 さわの様、赤松 芳樹様、山本 絵美様、柏 之雄様、藤井 克様、林 智洋様、西山 通様、西山 恵文様、朝倉 優様、村上 晶一様 他 匿名者 24名

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。
この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、皆さまからのご支援をお願いしています。

当センターのご寄付に関するホームページでは、ご寄付の活用方法や税制上の優遇措置について紹介しております。

皆さまのご支援を心よりお待ちしております。

お申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください

<https://oici.jp/center/effort/donation/>



OICIだより 2024年冬号〈季刊〉



特定機能病院 / 地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567

大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL.06-6945-1181 (代表)

2024年1月発行



ホームページ



<https://oici.jp/>

フェイスブック



[@oici.jp](https://www.facebook.com/oici.jp)

ライン



<https://lin.ee/Z0cDhHU>

※ QR コードは (株) デンソーウェブの登録商標です。



◆電車でご来院の場合

Osaka Metro「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分 / 京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「法円坂出口」より約5分 / 東大阪線「森之宮出口」より約8分